

(2) 学界との人材交流、学会との連携について、及び

(3) 府省間の人事交流について

関係府省回答資料

○内閣府	2
○総務省（政策統括官）	4
○総務省（統計局）	6
○厚生労働省	10
○農林水産省	14
○経済産業省	16

内閣府回答

(2) 学界との人材交流、学会との連携について

確認すべきとされた事項	回答
統計部局における大学等の研究機関との昨年度の人事交流の実績（相手先別の派遣者数、受入者数）についてご教示いただきたい。	特に行っていない。
統計部局において、担当している統計の作成等に関連して、昨年度に学者あるいは学会から知識を得る機会を持った実績（以下の(1)～(5)に示す場合毎のおおよその回数及び主なものについてその概要）について、可能な範囲でご教示いただきたい。 ○ 学者に対して、所掌する業務についての具体的な問題への解答・提言を求めた実績 (1) 研究会等への参加による場合 (2) それ以外の場合 ○ 上記以外の、統計全般あるいは統計調査の対象分野全般について、学者から知識の提供を求めた実績 (3) レクチャー、講演による場合 (4) それ以外の場合 ○ 職務の一環として職員が学会の大会等に参加した場合 (5) 職員が知見を高めるために、職務の一環として、学会の大会、コンファレンス、あるいは大学のセミナーなどに参加し、場合によっては発表を行った場合	別表のとおり

学界との人材交流や学会との連携に関する今後の取組について、どのような考えをお持ちかご教示いただきたい。	今後も引き続き、関係学会等の出席や有識者の知見を伺う機会を設け、業務に活かしてまいる所存。
---	---

(3) 府省間の人事交流について

確認すべきとされた事項	回答
これまでに府省間の人事交流で効果が高かったと思われる事例があれば紹介していただきたい。	統計実務の経験・知識面からの人事交流は効果が高いと考えられ、具体的には、 ・ 加工統計部局と一次統計部局の人事交流 ・ 総務省統計局からの人材の受け入れ

(別表) 統計部局において、担当している統計の作成等に関連して、昨年度に学者あるいは学会から知識を得る機会を持った実績。

区分	回数	内容
(1) 研究会等への参加による場合	10回程度	○ 景気動向指数の改善(先行指数の予測力の改善、景気循環の抽出方法等) ○ 消費動向調査に係る、経済社会の変化に即した調査内容、調査方法についての検討 ○ 日本標準産業分類の改訂を踏まえた、機械受注統計調査の需要者分類の改訂
(2) それ以外の場合	1回	○ 論文報告(主成分分析を活用した共通ファクター(景気循環)の抽出法)
(3) レクチャー、講演による場合	無し	-
(4) それ以外の場合	20回程度	○ 環境サテライト勘定、県民経済計算等の研究会への出席等
(5) 職員が知見を高めるために、職務の一環として、学会の大会、コンファレンス、あるいは大学のセミナーなどに参加し、場合によっては発表を行った場合	1回	○ 国民経済計算の推計に関する報告(経済統計学会の全国研究大会(2009年9月開催))

総務省（政策統括官）回答

（２）学界との人材交流、学会との連携について

確認すべきとされた事項	回答
統計部局における大学等の研究機関との昨年度の人事交流の実績（相手先別の派遣者数、受入者数）についてご教示いただきたい。	実績なし。
統計部局において、担当している統計の作成等に関連して、昨年度に学者あるいは学会から知識を得る機会を持った実績（以下の(1)～(5)に示す場合毎のおおよその回数及び主なものについてその概要）について、可能な範囲でご教示いただきたい。 ○ 学者に対して、所掌する業務についての具体的な問題への解答・提言を求めた実績 (1)研究会等への参加による場合 (2)それ以外の場合 ○ 上記以外の、統計全般あるいは統計調査の対象分野全般について、学者から知識の提供を求めた実績 (3)レクチャー、講演による場合 (4)それ以外の場合 ○ 職務の一環として職員が学会の大会等に参加した場合 (5)職員が知見を高めるために、職務の一環として、学会の大会、コンファレンス、あるいは大学のセミナーなどに参加し、場合によっては発表を行った場合	(1)～(4) 学識経験者を会議メンバー等とし、知識の提供を求めているもの ・ 経済指標専門会議（６回） ・ 産業関連技術委員会（８回） ・ 産業関連技術委員会作業部会（３回） ・ 統計の品質評価に関するWG（５回） ・ 統計シンポジウム （基調講演、パネルディスカッション） その他、経済センサス、産業統計の体系的整備等の検討に際して、個別に学識経験者の知見をうかがうなどを行いながら業務を遂行している。 (5) ・ 2009 年度統計関連学会連合大会 6 人（うち 2 人は報告者） ・ 第 62 回日本人口学会 2 人 ・ I S I 大会 1 人

学界との人材交流や学会との連携に関する今後の取組について、どのような考えをお持ちかご教示いただきたい。	学界・学会との連携については、重要であると考えているところ。 最近の連携の一例としては、統計の品質表示のための共通様式を含めた統計の品質に関する自己評価のためのガイドラインの検討・改訂を進めるに当たり、様々な分野の品質評価の研究開発で実績のある日本品質管理学会へ協力要請を行い、これにより同学会内に設置された統計の品質評価に関する研究会に当室からも職員が参加し、学会と連携して検討している。
--	---

(3) 府省間の人事交流について

確認すべきとされた事項	回答
これまでに府省間の人事交流で効果が高かったと思われる事例があれば紹介していただきたい。	3 省と人事交流を行っており、統計審査事務の経験や自省の統計調査以外の統計の状況等について知識を習得してもらうとともに、統計行政全体についての理解を深めてもらっているところ。 平成 19 年 5 月に成立・公布された新統計法については、平成 18 年 7 月から概ね 2 年間、4 府省から職員を派遣して頂き、新統計法の改訂作業を円滑に行うことができた。 経済センサスの立上げのための検討作業等において、平成 16 年 2 月から 21 年 10 月までの間、1 省から職員を派遣して頂き、検討・調整作業等を円滑に行うことができた。

総務省（統計局）回答

（２）学界との人材交流、学会との連携について

確認すべきとされた事項	回答
統計部局における大学等の研究機関との昨年度の人事交流の実績（相手先別の派遣者数、受入者数）についてご教示いただきたい。	平成 21 年度の総務省統計局・統計研修所及び（独）統計センターにおける大学等の研究機関との人事交流の実績（相手先別の派遣者数、受入者数）は以下のとおり 【派遣者数】 一橋大学 2 人（准教授、助教（常勤）） 神戸大学 1 人（客員教授（非常勤）） 日本社会事業大学 1 人（講師（非常勤）） 【受入者数】 東京大学 3 人（統計研修所客員教授(非常勤) 2 人、 統計研修所客員研究官(非常勤) 1 人) お茶の水女子大学 1 人（統計研修所客員教授（非常勤）） 慶應義塾大学 1 人（ ” ） 中央大学 1 人（ ” ） 横浜国立大学 1 人（ ” ） 東京学芸大学 1 人（統計研修所客員研究官（非常勤）） 三重大学 1 人（ ” ） 大阪成蹊短期大学 1 人（ ” ） 明海大学 1 人（統計センター研究員（非常勤）） 統計数理研究所 1 人（ ” ）
統計部局において、担当している統計の作成等に関連して、昨年度に学者あるいは学会から知識を得る機会を持った実績（以下の(1)～(5)に示す場合毎のおおよその回数及び主なものについてその概要）について、可能な範囲でご教示	○ 学者に対して、所掌する業務についての具体的な問題への解答・提言を求めた実績 (1)研究会等への参加による場合 平成 21 年度は、以下の研究会を開催し、学者から提言を受けた。 ・平成 22 年国勢調査の企画に関する検討会（座長：堀部政男 一橋大学名誉教授） ・雇用失業統計研究会（座長：玄田有史 東京大学教授） ・物価指数研究会（座長：溝口敏行 一橋大学名誉教授）

いただきたい。 ○ 学者に対して、所掌する業務についての具体的な問題への解答・提言を求めた実績 (1) 研究会等への参加による場合 (2) それ以外の場合 ○ 上記以外の、統計全般あるいは統計調査の対象分野全般について、学者から知識の提供を求めた実績 (3) レクチャー、講演による場合 (4) それ以外の場合 ○ 職務の一環として職員が学会の大会等に参加した場合 (5) 職員が知見を高めるために、職務の一環として、学会の大会、コンファレンス、あるいは大学のセミナーなどに参加し、場合によっては発表を行った場合	・ 家計統計検討会（座長：大林千一 帝京大学教授） ・ 統計局ホームページを通じた統計教育の拡充に関する懇談会（座長：渡辺美智子 東洋大学教授） ・ サービス産業統計研究会（座長 廣松毅 情報セキュリティ大学院大学教授） (2) それ以外の場合 その他、有識者との意見交換を、日常的に数多く行っている ○ 上記以外の、統計全般あるいは統計調査の対象分野全般について、学者から知識の提供を求めた実績 (3) レクチャー、講演による場合 都道府県との会議や統計局内の会議において、講演会を開催し、研究者に講演を依頼。 テーマ例 ・ 家計貯蓄率低下の要因分析 ・ 税制改革と年金改革のシミュレーション分析 ・ 日本における貧困の実態 (4) それ以外の場合 統計研修所において共同研究を実施。また、研修講師を依頼。 共同研究のテーマ ・ 妻の就業と夫婦の時間配分に関する分析 ・ 未就学児のいる世帯の家計状況 等 講師を依頼した研修テーマ ・ 統計指標の見方・使い方 ・ 国民経済計算 等 ○ 職務の一環として職員が学会の大会等に参加した場合 (5) 職員が知見を高めるために、職務の一環として、学会の大会、コンファレンス、あるいは大学のセミナーなどに参加し、場合によっては発表を行った場合 21 年度は、以下の学会で発表を行った。 ○ 日本統計学会 第 77 回大会 ・ 新統計法の全面施行について ・ 平成 22 年国勢調査の実施計画案の概要 ・ 日本標準職業分類について
--	--

	・平成 18 年社会生活基本調査生活行動の「その他」項目の集計結果と同項目の記入状況に関する分析について ・法人企業の債務超過集計と時価推計試算 ・統計利用の一層の拡大に向けた匿名データ提供等の取組について ・匿名データの種類及び内容について (は、総務省政策統括官室（統計基準担当）の発表) ○日本人口学会 第 61 回大会 ・平成 22 年国勢調査の実施に向けて(検討状況報告) ・第一子出生夫婦に関する就業状態等の特徴とその変化 ・国勢調査同居児表に基づくパリテイ別人口の推計について ・無就業・無就学の壮年者 ○日本地理学会 2010 年春季学術大会 ・社会における公的統計の意義と役割 - 国勢調査と地理情報の関係を中心として - ・国勢調査の市町村統計と地理学研究 ・カンボジア・プノンペン首都圏の小地域分析
学界との人材交流や学会との連携に関する今後の取組について、どのような考えをお持ちかご教示いただきたい。	学界との連携強化については、統計の質の向上や統計に対する理解促進にとって重要な取組であると認識しており、今後とも推進に努めてまいりたいと考えているところ。 ○ 統計研修所における学者との共同研究の実施や、研修講師依頼等の交流は、統計の質の向上の観点から有意義であり、今後とも推進してまいりたい。 (なお、常勤職員としての受入については、定員上の制約があるところ。) ○ 統計局職員の大学等への派遣・出向については、極めて限られた定員の中で統計業務を行っている現状に鑑みると難しい面もあるが、条件等が合えば可能な範囲で対応してまいりたい。 ○ 統計局主催の研究会に外部の研究者に参加していただき、専門的立場から各種提言をいただくことは、統計局にとっても有用であり、今後とも進めてまいりたい。

	○ 統計局職員による学会での発表についても、学会との交流を通じて、統計に関する研究・分析の水準向上に貢献するとともに、統計に関する理解促進及び利用者のニーズの把握にも資するものと考えており、今後とも積極的に推進していきたい。
--	--

(3) 府省間の人事交流について

確認すべきとされた事項	回答
これまでに府省間の人事交流で効果が高かったと思われる事例があれば紹介していただきたい。	府省間の人事交流の評価については、 ・ 派遣元と派遣先との双方での評価を考える必要があること ・ 当面の業務に役立ったという短期的な評価だけでなく、当該職員のキャリアパス等も含めた長期的な評価も必要であることなどの面があり、評価が難しいが、統計局では以下のような人事交流を行っているところ。 ○ 経済センサスに係る経済産業省との人事交流 経済センサス-活動調査を共同で実施する経済産業省との間で人事交流を行い、連携を強化するとともに、統計調査に関する双方の知識・経験を共有化。 ○ 内閣府経済社会総合研究所国民経済計算部への出向 GDP 統計を作成している内閣府経済社会総合研究所国民経済計算部に職員を出向させ、統計作成業務に従事させているところ。

厚生労働省回答

(2) 学界との人材交流、学会との連携について

確認すべきとされた事項	回答
統計部局における大学等の研究機関との昨年度の人事交流の実績(相手先別の派遣者数、受入者数)についてご教示いただきたい。	一橋大学経済研究所(研究員)1名派遣(匿名データに関する業務のため)
統計部局において、担当している統計の作成等に関連して、昨年度に学者あるいは学会から知識を得る機会を持った実績(以下の(1)~(5)に示す場合毎のおおよその回数及び主なものについてその概要)について、可能な範囲でご教示いただきたい。 ○ 学者に対して、所掌する業務についての具体的な問題への解答・提言を求めた実績 (1) 研究会等への参加による場合 (2) それ以外の場合 ○ 上記以外の、統計全般あるいは統計調査の対象分野全般について、学者から知識の提供を求めた実績 (3) レクチャー、講演による場合 (4) それ以外の場合 ○ 職務の一環として職員が学会の大会等に参加した場合 (5) 職員が知見を高めるため	統計情報部の職員が統計の作成等に関連して、平成21年度に外部有識者等から知識を得るための検討会の開催及び研究会等への参加実績は以下のとおりである。 (1) ➤ 「<u>縦断調査の充実に係る検討会</u>」 (構成員：外部有識者5名) (平成21年3月30日～平成22年3月31日の間に6回) 平成21年3月13日閣議決定された「公的統計の整備に関する基本的な計画」において、「世代による違いの検証等のため、21世紀出生児縦断調査及び21世紀成年者縦断調査について、新たな標本の追加等を検討する(平成21年度中に結論を得る)」こととされたことから、新たな標本の追加の方法やその時期と調査項目等に関して検討を行った。 (2) ➤ 「<u>平成16年国民生活基礎調査の匿名データ化について</u>」 (協力機関等：一橋大学経済研究所附属社会科学統計情報研究センター等8名) (平成21年1月以降(逐次、継続的に推進)) 統計局4調査を始めとする匿名化技法に関する知見に卓越している同研究センターに、本調査の匿名データに関する匿名化技法、技術的検討等について研究、指導を依頼し、同研究センターを中心としながら他の学識者の協力を得て、本研究を進めているところ。

に、職務の一環として、学会の大会、コンファレンス、あるいは大学のセミナーなどに参加し、場合によっては発表を行った場合	➤ 「社会保障審議会統計分科会」 （構成員：外部有識者 11 名） （平成 21 年 6 月 4 日、平成 22 年 2 月 19 日） 社会保障審議会令第 5 条に基づき設置された社会保障審議会の分科会として、社会保障及び人口問題と関連が深い統計について基本的な問題を中心に、統計の新規企画や既存統計の変更のうち、重要なものについて統計のあり方や統計の改善の観点から審議を行った。 （ 5 ） ➤ <u>研究集会「官庁統計データの公開における諸問題の研究」</u> （科学研究費補助金研究班及び統計数理研究所） （平成 21 年 10 月 22、23 日）（参加者 4 名） 匿名データを作成するに当たり、考慮する必要がある個票開示リスクの評価に関する知見を深めるために、「秘匿された個票データのリスク評価法の確立と官庁統計データの公開への応用」をテーマとする研究班による成果を傍聴し、情報収集を行った。 ➤ 「<u>統計関連学会連合大会</u>」 （日本統計学会 ほか統計関連学会 6 団体共催） （平成 21 年 9 月 6～9 日）（参加者 3 名） 統計科学の先端技術に関する知見を高めるために、研究者や統計実務家の統計実務に係る研究成果を傍聴した。
学界との人材交流や学会との連携に関する今後の取組について、どのような考えをお持ちかご教示いただきたい。	今年度、(社)日本品質管理学会から同学会主催の「統計・データの質マネジメント研究会」に委員派遣の依頼があり、当部から委員を派遣することとした。なお、これに伴い当省は、同学会の賛助会員となった。今後も、統計業務に関連して、各学会との人事交流等の連携については、事案毎に検討いたしたい。

(3) 府省間の人事交流について

確認すべきとされた事項	回答
これまでに府省間の人事交流で効果が高かったと思われる事例があれば紹介していただきたい。	平成 2 1 年度においては、総務省政策統括官(統計基準担当)経済統計担当統計審査官室主査として人事交流をおこなっており、新統計法による各種審査などのノウハウを蓄積することにより、今後、厚生労働省において、統計調査の企画調整等への効果を期待するところ。 平成 1 9 年においては、内閣府大臣官房統計委員会担当室参事官補佐として人事交流を行い、「公的統計の整備に関する基本的な計画」の策定に関わったことにより、当時の経過や理念等を踏まえて、当省としての基本計画への対応を推進することができる。 平成 1 8 年度において、総務省政策統括官付統計企画官付として、人事交流を行い、統計法改正に関わったことにより、厚生労働省として、迅速に新統計法への対応を行えた。(委託統計や匿名データへの対応)

農林水産省回答

(2) 学界との人材交流、学会との連携について

確認すべきとされた事項	回答
統計部局における大学等の研究機関との昨年度の人事交流の実績(相手先別の派遣者数、受入者数)についてご教示いただきたい。	実績なし
統計部局において、担当している統計の作成等に関連して、昨年度に学者あるいは学会から知識を得る機会を持った実績(以下の(1)～(5)に示す場合毎のおおよその回数及び主なものについてその概要)について、可能な範囲でご教示いただきたい。 ○ 学者に対して、所掌する業務についての具体的な問題への解答・提言を求めた実績 (1)研究会等への参加による場合 (2)それ以外の場合 ○ 上記以外の、統計全般あるいは統計調査の対象分野全般について、学者から知識の提供を求めた実績 (3)レクチャー、講演による場合 (4)それ以外の場合 ○ 職務の一環として職員が学会の大会等に参加した場合 (5)職員が知見を高めるために、職務の一環として、学会の大会、コンファレンス、あるいは大学のセミナーなどに参加し、場合によっては発表を行った場合	(1)研究会等への参加 「水稻の作柄に関する委員会」(21年度4回開催) 水稻の作柄等について広く一般国民に正確な情報を提供する観点から、温暖化などの気候変化や稲作栽培技術の動向が水稻生産に与える影響及び気象推移等が当該年の作柄に与える影響等について専門的見地から意見を聴き、10a当たり平年収量の適正な設定や水稻収穫量調査等の的確な実施に資することを目的に設置。

学界との人材交流や学会との連携に関する今後の取組について、どのような考えをお持ちかご教示いただきたい。	現時点において、関係学界等との人材交流について検討等を行っていない。
--	---

(3) 府省間の人事交流について

確認すべきとされた事項	回答
これまでに府省間の人事交流で効果が高かったと思われる事例があれば紹介していただきたい。	これまで、内閣府、総務省、国土交通省等の調査関係部門との人事交流を行っている。これらの他府省交流経験者は、現在、本省の中核職員、地方幹部職員として活躍しており、総論的には効果が出ていると思料される。

経済産業省回答

(2) 学界との人材交流、学会との連携について

確認すべきとされた事項	回答
統計部局における大学等の研究機関との昨年度の人事交流の実績(相手先別の派遣者数、受入者数)についてご教示いただきたい。	・大学(受入:1名、派遣:1名) ・大学教授等との共同研究を行っている研究機関(派遣:2名)
統計部局において、担当している統計の作成等に関連して、昨年度に学者あるいは学会から知識を得る機会を持った実績(以下の(1)~(5)に示す場合毎のおおよその回数及び主なものについてその概要)について、可能な範囲でご教示いただきたい。 ○学者に対して、所掌する業務についての具体的な問題への解答・提言を求めた実績 (1)研究会等への参加による場合 (2)それ以外の場合 ○上記以外の、統計全般あるいは統計調査の対象分野全般について、学者から知識の提供を求めた実績 (3)レクチャー、講演による場合 (4)それ以外の場合 ○職務の一環として職員が学会の大会等に参加した場合 (5)職員が知見を高めるために、職務の一環として、学会の大会、コンファレンス、あるいは大学のセミナーなどに参加し、場合によっては発表を行った場合	(1)、(2)研究会等への参加 ・215名(延べ人数) - 主な事例: ・生産動態統計調査の対象基準の妥当性に関する調査研究 ・統計情報のXML利用環境の整備に関する調査研究 ・経済センサス活動調査における調査事項の具体化に関する調査研究 等 (3)、(4)レクチャー、講演 ・実績回数:30回(延べ回数) - 主な事例: - マクロ・ミクロ経済学 各4回 - 標本調査 2回 - 回帰分析手法 8回 - 産業・企業分析手法 5回 等 (5)大学セミナーなど ・大学教授など講師とする統計に関する省内セミナー等(14回)へ多数参加。

学界との人材交流や学会との連携に関する今後の取組について、どのような考えをお持ちかご教示いただきたい。	学界との人材交流等については、これまでの取り組みを継続しつつ、今後も推進に努めて参りたい。
--	--

(3) 府省間の人事交流について

確認すべきとされた事項	回答
これまでに府省間の人事交流で効果が高かったと思われる事例があれば紹介していただきたい。	内閣府、総務省、農林水産省等との人事交流を実施。